第27回

中四国 精神保健福祉士大会 広島大会

今こそこだわる　PSWの「かかわり」を!
～つなぎ、伝え、つながっていく～

日　時

2011(平成23)年
12月10日(土) (12:30開場)13:00~17:50
11日(日) (9:00開場)9:30~12:30

会　場

広島国際会議場
広島市中区中島町1-5　平和記念公園内
http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/

懇親会会場

同会場(ダリア2)

主催:広島県精神保健福祉士協会　第27回中四国精神保健福祉士大会実行委員会

後援:広島県／広島市／(社)広島県医師会／(社)広島市医師会／(社)広島県精神保健福祉協会／(社)広島県病院協会
広島県精神科病院協会／広島県精神神経科診療所協会／(社)広島県看護協会／(特社)日本精神科看護技術協会広島県支部
(社福)広島県社会福祉協議会／(社福)広島市社会福祉協議会／(社)広島県精神保健福祉家族会連合会
(社)広島県作業療法士会／広島県医療ソーシャルワーカー協会／広島県臨床心理士会／(社)広島県社会福祉士会
きょうされん広島県支部／広島県精神障害者社会復帰施設連絡会／(NPO)広島県介護支援専門員協会
広島県精神障害者事業所職員会／(社)広島県介護福祉士会／(社)日本精神保健福祉士協会　(順不同)

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、尊い命をなくされた方々のご冥福をお祈りし、被災されたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私たちは、この度の震災を機に、この国のあり様や日常の生活、福祉実践について、根底から捉えなおさねばならないと感じております。この間、各人が一人の「専門職」として、一人の「住民」として、「自分に出来る役割」や「支援」について考えてまいりました。この度、第27回中四国精神保健福祉士大会を広島の地で開催するにあたり、先達より教えられた「かかわり」「かかわる」という原点を再確認することの中で、これよりの福祉実践活動に邁進したいと考えております。

【大会趣旨】

「ひらがな」で「かかわり」「かかわる」。私たちPSWが最も大切にしている「ことば」と「響き」です。しかしながら、共通認識としての「かかわり」は果たして受け継がれているのだろうか、と危惧されています。ややもすれば「関係論」としての「関わり」が先行し、知識と技術の獲得に追われ、専門職として大切な価値・倫理を置き去りにしている現実はないでしょうか。「かかわり」は、クライエントと取り巻く人々とPSWが、対等な関係で目的に向け進んでいく過程の中にある、「あたたかさ」(相互にジレンマを抱く)そのもので、PSWの実践の醍醐味だと思います。クライエントに寄り添い、クライエントの自己決定を尊重するプロセスに双方が「向き合う」ことであり、互いにやりとりを重ね、目標を共有し、共に歩んでいくのがPSWの実践なのだ、と考えます。

近年、社会情勢の変化に伴い、PSWの実践現場も多岐にわたり、役割や期待されているものが大きくなり、さらにはその現場内容が変化していく一方、大切にしなければならない基本があるはずです。それが、私たちPSWがこだわってきた「かかわり」です。

広島大会では、私たちが大切にしてきた「かかわり」にこだわりながら、私たちの実践を振り返り、PSWが果たすべき役割について共に考えていきます。そして、これまでの先輩諸氏が培ってきたもの、伝え続けられてきたものを「つないでいくこと」「伝えていくこと」、そしてPSW自身が主体的に社会と「つながっていくこと」を確認するため副題としました。

大会プログラム

12/10（土）	12:30	受付
	13:00	開会式
	13:30	基調講演「協働と連携～『かかわり』をキーワードに～」 講師　柏木　昭 氏（(社)日本精神保健福祉士協会名誉会長） （聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター顧問）
	15:00	休　憩
	15:20	シンポジウム「災害とPSW～他職種との連携の中で見えてくる役割～」 シンポジスト　佐尾　貴子 氏（愛媛県心と体の健康センター：愛媛県） 河村　博之 氏（防府市社会福祉協議会：山口県） 木村　雅昭 氏（(医社)友和会友和病院：広島県） コーディネーター　廣江　仁 氏（(社福)養和会Ｆ＆Ｙ境港：鳥取県）
	17:50	休　憩
	18:30	懇親会
	20:30	終了
12/11（日）	9:00	受付
	9:30	分科会①「先輩からのメッセージ～受け継いでいくこと、伝えていくこと～」 シンポジスト　梶元　紗代 氏（(医社)造山会まきび病院：岡山県） 丸田　一郎 氏（(財)真光会真光園：愛媛県） 富島　喜揮 氏（四国学院大学：香川県） 座長　桑原　陽子 氏（(医社)はっぴねす本田クリニック：広島県） 分科会②「若手が語る『今』」 話題提供：【広島の若手】 石橋沙央理 氏（(社福)ふれんずサポートセンター）、 伊藤拓哉 氏・竹中雄一 氏（県立広島病院）、 重村佑佳 氏・山崎涼子 氏（(医)比治山病院）、西本圭宏 氏（(NPO)ウイングかべ）、 福岡響子 氏（(医社)二山会宗近病院）、山肩亜希子 氏（(医)緑風会ほうゆう病院） 分科会③「医療機関における実践報告」 発表者　長友　宏江 氏（(医社)二山会宗近病院：広島県） 長井　佑介 氏（(医)南和会千鳥ヶ丘病院：山口県） 塚本　弥生 氏（広島市立広島市民病院：広島県） 座長　調整中 分科会④「地域とその他の領域における実践報告」 発表者　美馬　ゆかり 氏（とみた県南コミュニティケアセンター：徳島県） 水谷　実和子 氏（(医社)以和貴会ライブサポートセンター：香川県） 田代　弥生 氏（法務省保護局広島保護観察所：広島県） 尾川　蘭 氏（(医社)恵宣会竹原病院：広島県） 座長　調整中
	11:50	休　憩
	12:00	閉会式
	12:30	終了

プログラムの内容

基調講演

「協働と連携～『かかわり』をキーワードに～」

講　師：柏木　昭　氏

（社）日本精神保健福祉士協会名誉会長
聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター顧問

連携する他職種の専門家と違い、ソーシャルワーカーはこれといった武器（技術）を持ち合わせません。医師には医学という基礎の上に臨床技術があり、看護師、保健師には看護、保健という専門領域で の技術があります。

しいて言えば、ソーシャルワーカーには協働と連携があります。協働は当事者との関係において具体的な意味を持ちます。当事者との間で、ソーシャルワーカーは諸情報の収集とその吟味を共に行い、問題解決に取り組みます。これは協働です。連携は保健・医療及び地域における関係者との間で、福祉専門職としての活動を展開することによって価値が生じるでしょう。医師との連携は必ずしもソーシャルワーカーが、当事者の治療について協力することではありません。当事者の地域生活の支援こそが、福祉職の中心的な業務なのであります。

結論的にはソーシャルワーカーは、その職域が病院・診療所であろうと、施設であろうとまた地域であろうと、業務の目的には変りはありません。手立てが多少違うだけです。こういう立ち位置で、改めてソーシャルワークを方法論として考えてみたいと思います。この目的を果たすためには、地域の拠点が必要になります。当事者にとっても、またソーシャルワーカーにとっても地域の拠点となる**トポス**の創設と、そこでの地域住民との**かかわり**の可能性は、当事者の生活支援に未来を開くことになるでしょう。

シンポジウム「災害とPSW～他職種との連携の中で見えてくる役割～」

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災。突然、多くの尊い命や人々の暮らしが奪われました。今まで当たり前にあった生活が崩れた被災地。今も多くの専門職が連携を取りながら復興に向けて支援活動を続けています。支援に携わるPSWからは、「普段からできていないことは災害時にできるはずがない」という言葉をよく聞きました。日常業務の中でも必要不可欠な連携。しかしながら私たちは今まで、「災害時にも機能する連携」を意識しながら日常業務を行なってきたでしょうか。災害はいつでも誰にでも身近に起こることであり、そのような時こそ連携が機能しなければならないと思います。

このシンポジウムでは、各地で災害支援に携わった方々からのお話を伺います。大規模な災害に見舞われたという現実を共に見つめ、他職種との連携に焦点をあてながら私たちの日頃の実践を振り返り、改めてPSWの視点・役割とは何かを参加者の皆さんと考えていきたいと思います。

分科会① 先輩からのメッセージ～受け継いでいくこと、伝えていくこと～

PSWが国家資格化されて15年が経とうとしている今、全国的に中堅者から若い世代の数が圧倒的に増えている現状があります。国家資格化以前から精神保健福祉領域で活躍し「かかわること」にこだわってきた先輩方からの実践を引き継ぐ中堅者と若い世代には、次代の担い手として「受け継いでいくこと」と共に「伝えていくこと」が求められているのではないでしょうか。諸先輩方の「姿勢」や「想い」をどう受け継ぎ、伝えていくのか…。

PSWの業務も多様化し、活躍できる場が広がっている今だからこそ"先輩からのメッセージ"を改めて受けとめ、明日の実践にどう活かしていけるのかをグループワークを交えながら皆さんと共に考えていく機会にしたいと思います。

分科会② 若手が語る「今」

「PSWとして全然自信がない…」「どこを目指せば良いのか…」「時間に追われ、本人とじっくり話せていない」「仕事をしていく中でどこに焦点を当てれば良いのか…」

広島の若手から出た「悩み」や「不安」です。同じように悩んでいる若手は多いのではないでしょうか。悩むけれどもなかなか答えを導き出せない。相談できる人がいない。こんなことを言っても良いのか…など、様々な想いを抱えています。若手と言われる世代は、「精神保健福祉士」という資格が先にあり、仕事に就いて、後から自分の「PSW像」をさがす日々。自問自答しつつ、心の中で「誰か教えて!」と思う悩み多き世代。目の前のことに精一杯で、一体自分が何に悩んでいるのか振り返る余裕のない若手たちが敢えて立ち止まって語る中で、見えてくるもの…。その過程で絞り出した若手の「今」をグループワークを交えながら皆さんと共有し、「明日」につなげていく機会にしたいと思います。

分科会③ 医療機関における実践報告

「病気と薬の情報を正しく伝える」

○長友宏江、満田美智子、藤若千恵、福岡響子（宗近病院）

「長期入院患者の退院～『一緒に暮らしたい』～」

○長井佑介（千鳥ヶ丘病院）

「HIVソーシャルワークにおける同性愛者の支援と課題」

○塚本弥生（広島市民病院）

分科会④ 地域とその他の領域における実践報告

「限界地域で暮らしていく支援（地域移行支援事業を通して）」

○美馬ゆかり（とみた県南コミュニティケアセンター）

「事例提供を断られてPSWの在り方を考えた」

○水谷実和子（ライブサポートセンター）

「医療観察法の当初審判に関わる精神保健福祉士～精神保健参与員の実態とその役割についての考察～」

○田代弥生、森山一寿、神原一也、山口高広（広島保護観察所）

「事例検討からの学び～かかわりをふり返ることで見えてくるもの～」

○尾川蘭（竹原病院）、秋本直子（東広島医療センター）、大下哲史（賀茂精神医療センター）、野村麻衣（三原病院）

参加申し込みについて

- 詳細につきましては、別紙「参加登録・懇親会・宿泊申込のご案内」をご覧下さい。
- 本大会の参加申し込み窓口は「(株)JTB中国四国　広島支店」となっておりますので、お間違えのないようにお願い致します。
- 申し込み書は、広島県精神保健福祉士協会のホームページよりダウンロードできます。

【お問い合わせ】

第27回中四国精神保健福祉士大会広島大会　事務局

〒739-2693　広島県東広島市黒瀬町南方92

独立行政法人国立病院機構　賀茂精神医療センター　ソーシャルワーカー室

TEL：0823-82-3000　FAX：0823-82-7352

E-mail：taikai@hiroshima-psw.com

広島県精神保健福祉士協会ホームページ：http://www.hiroshima-psw.com/